ここがポイント！授業づくり

京都府丹後教育局
学校教育担当
令和２年６月発行
授業力ＵＰ研修１

この資料は、教職経験１～６年目（ステージⅠ）の先生方を主な対象として作成しています。他のステージの先生方にとっても、御自身の日々の授業実践を振り返っていただくきっかけとなれば幸いです。

今回のテーマ:「目標と指導と評価の一体化」

先生方は何のために評価をしているのか考えられたことはありますか。児童生徒の成績を付けるためでしょうか。もちろんそういった側面はあります。それだけではなく、評価は先生方が「自分の指導はこれでよかったかな」と授業を振り返り、改善するためにも重要です。

指導をするときには目標を立て、児童生徒全員が目標を達成できるように指導をします。そして、指導をした結果がどうであったか、目標が達成できたかどうかを確かめることが評価です。評価をして児童生徒の学習状況をつかむとともに、自分の指導を振り返り、次の時間の指導の見直しをします。

児童生徒に資質・能力を身に付けさせる授業づくりには「目標と指導と評価の一体化」が重要です。

評価を指導に生かすってどういうことですか？

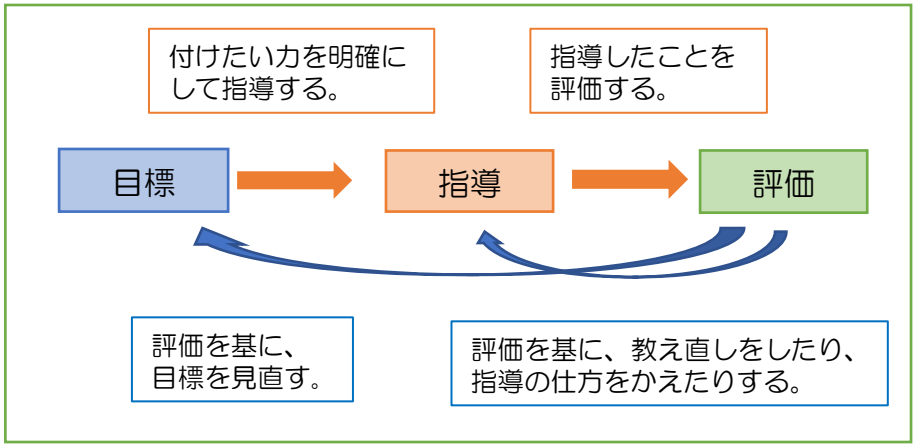
評価＝テストではありません。授業中の発言、ノートの記述内容、活動の様子、振り返りの内容など、様々な場面で児童生徒の理解状況を見取ることも評価方法の一つです。このようにして、見取った評価を指導に生かします。

授業前に先生方は「どう進めようか」と計画を立てておられますね。そのとおり授業を進めていたら、児童生徒が思わぬところでつまずいたという経験はありませんか？

そのようなときには、そのまま計画どおり進めるのではなく、説明をし直したり、前時の学習を振り返ったりと、計画していた授業の展開をかえる必要があります。

なぜなら授業の目的は、計画どおり授業を進めることではなく、児童生徒に目標とする力を身に付けることだからです。したがって、児童生徒の理解状況を把握しながら、柔軟に展開をかえることも大切です。

前時の学習内容が十分定着していないことが分かったら、次の時間の授業の計画を見直すことも必要です。



目標

この単元やこの１時間で児童生徒にどのような力を付けたいか。「〇〇を理解している」「〇〇ができている」など、児童生徒の姿として、具体的に考える。

指導

目標を達成するために、何を教え、何を考えさせ、どんな活動をさせるのか。そのためにはどんな展開や発問がよいのか、必要な教具は何か、などを考える。

評価

指導したことが、児童生徒に身に付いているかどうかを評価する。言い換えると、指導していないことは評価できないということになる。児童生徒がどういう姿であれば目標を達成したといえるか、具体的に考えておく。

「教えたつもりなのに、児童生徒はよく分かっていなかった」「テストをしたら、思っていたよりできていなかった」という経験はありませんか？

児童生徒に力を付けるためには、指導の途中で児童生徒の学習状況を確かめながら、必要に応じて教え直しをしたり、指導方法を工夫したりすることが大切なのです。